

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100012		
法人名	医療法人地塩会		
事業所名	グループホーム神田		
所在地	高知県高知市神田2322-1		
自己評価作成日	平成23年9月27日	評価結果 市町村受理日	平成23年12月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの介護理念の実践  
一人一人の人生を大切に、自分らしい生活を続けていけるようにお手伝いします。  
それぞれが役割を持ち、やりがいと生きがいのある毎日を作っていきます。  
入居者様とスタッフが共に支えあい、地域の中で暖かい暮らしをしていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3990100012&amp;SCD=320&amp;PCD=39">http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3990100012&amp;SCD=320&amp;PCD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年11月18日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、中心市街地に隣接する住宅街の中にあり、同一敷地内には法人が運営する有料老人ホームがある。住宅街の中にあっても、事業所のある一角は緑が多く、近くにある保育園から時折元気な子供たちの声が聞こえてくる程度で、静かな環境に恵まれている。利用者は事業所内で、パズルをしたり、テレビを見たり、鼻歌を歌ったり、職員と一緒に食事の準備をするなど、思い思いの生活を楽しんでいる。利用者ができることにはバラつきがあるため、職員は理念にある「自分らしい生活の継続」を実践することに努めている。管理者は交代したばかりであるが、利用者を大切に思い、利用者の理解を得ることを第一に考え、運営推進会議を今以上に充実させることにより、地域の中で共に暮らしていけることを目指している。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：東西ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで話し合って理念を作り、それをホーム内に掲示している。毎朝の申し送り時に声に出して唱和している。理念を基に日々のケアに取り組んでいる。また管理者及び職員が毎月1回必ずミーティングを行い、理念の確認の基にケアの向上に取り組んでいる。	事業所独自の理念を作り、毎朝、申し送り時に唱和して意識づけをしている。職員は理念に基づき、利用者が地域の中で今までの生活を可能な限り継続し、自分の役割を持って、その人らしく生活できるよう、支援している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者とホーム周辺を散歩し、近隣の方々に声をかけ、顔見知りになれるよう努めている。また庭を散歩したり、玄関前のベンチでくつろいでいる時等に犬の散歩に通られている方がいれば、声をかけ、立ち寄りいただいたりしている。町内の行事(いきいき百歳体操、町内一斉清掃、フラダンス教室、夏祭り等)に参加している。また町内会長さんと知人の方がフラダンスを教えに来て頂いている。また近隣の美容室が出張美容に来ている。	町内会に加入し、地域活動等の情報を収集している。町内の行事には町内会長の協力で出席することが多く、地区の老人憩いの家で毎週行っている「いきいき百歳体操」にも出来る限り参加するようにしている。その結果、近所の住民と顔見知りになり、スーパーに買い物に行った時などに声掛けをしてくれたり、季節の果物をおすそわけしてくれるなど、近隣との交流が発展している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実習生の受け入れを行っている。いずれは地域の方を対象とした認知症についての勉強会等を開催したい。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動内容や日々の状況を報告し、意見交換を行っている。また様々な検討事項についても意見をいただいている。会議で頂いた意見は、サービス向上に活かしている。	事業所からの報告だけでなく、参加者との意見交換も行っており、双方向的な会議になっている。評価で明らかになった課題の報告もしているようであるが、その内容を記録に残していない。	課題改善の取り組み等について参加者の意見等を記録に残し、職員間で共有することで、サービスの質の向上に活かすことを期待したい。また、外部評価の報告の際には「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」の表を活用されたい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支援センター長に西部地域グループホーム連絡会の世話役をしていただいております。2ヶ月に1度の連絡会の席上で、事業所の抱える各種問題について相談に乗ってもらっている。	市の西部地域グループホームの勉強会を各グループホームが当番制で開催しており、この勉強会を通じて、地域包括支援センターや市の担当者との協力関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について外部の勉強会に参加したり、事業所内でも勉強会を実施し、全職員が正しい知識を持つよう教育し、実際のケアにつなげるよう努めている。	「介護理念」と共に「身体拘束廃止に関するグループホーム神田の理念」を併記し、職員に周知徹底している。職員は何が身体拘束に当たるのかを正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の勉強会に参加したり、事業所内でも勉強会を実施し、虐待防止に関する知識を高め、防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度等を活用されている方はいないが、必要性のある方がいれば随時それらを活用できるような支援を行っていく。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接も含め利用者や家族の希望や疑問点を聞き、それについて理解、納得してもらい、契約書等も十分な説明の上、同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族との関わりの中で意見要望等を言いやすい関係作りを心がけており、意見要望等があった場合は職員で話し合いの上、サービスに反映させている。玄関にはご意見箱を設置し、いつでも意見要望を出していただけるようにしている。また苦情相談窓口も設置し、契約の際に口頭と書面で説明している	家族の意見や要望は、面会時や季節ごとの行事に合わせた家族会で聞くようにしている。利用者、家族等から出された意見や要望は職員と話し合い、対応等の経過を職員に周知し、サービスの質の向上や運営に反映させている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開き、職員の意見提案等を聞く機会を設けている。また必要があれば随時話し合いを行い、職員の意見をサービス向上に反映させている。	ユニットごとに月1回ミーティングを行い、職員の意見や要望を聞く機会を設けており、事業所の運営に反映させるようにしている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働上の権利を守ることを心がけている。職員が向上心を持って仕事ができるように人事考課を行い、また研修の機会も豊富に与えている。親睦会を行ったり、心身のリフレッシュのために有給休暇を定期取得できるようにしている。また2年ごとに職員旅行も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対して、外部または法人内研修の予定情報を豊富に提供し、参加の機会を設けている。また月に一度のミーティング時にも事業所内研修を行ったり、随時OJTも実施している。法人全体として年間の研修計画に基づいた各種研修会も行われている。伝達研修も随時行っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成20年7月、西部地域のグループホームが集まり情報交換や意見交換する場として、西部地域グループホーム連絡会が発足し、2ヶ月に1度連絡会を催している。事業所が持ち回りで担当になり連絡会を開いており、それぞれの事業所の抱える各種問題をテーマに討議している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時より本人の希望や不安、要望など聴く機会を設け、本人の思いを受け止め、沿っていきけるよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時より家族の希望や不安要望などを聴く機会を設け、家族が本当に求めているものは何かを理解し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている適切な支援を見極め、必要であれば他のサービス利用も含め、助言している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、日々の会話の中から今どんな思いであるのかを引き出し、本人がこれまで経験してきた事柄など教えていただく機会を設け、職員と共に生活していく関係をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちを尊重し、利用者の状況などを伝えたり、要望を聴くなど情報交換を十分に行い、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や行きつけの店や日曜日など本人の馴染みの場所へ出掛けたり、旧知の人々の来訪を受けたりして、人間関係や場所との関係が継続できるように配慮している。	馴染みの美容院や喫茶店に行ったり、日曜市に通う習慣がある利用者と一緒に買い物に出かけるなど、今までの生活習慣を大切にする支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に対応したり、集団で過ごす時間を設定したり、気の合う者同士で過ごす時間を持つたり等、職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、家族からの相談事等があれば、相談に乗り、利用者の在宅生活の充実を図る支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、ご家族より入居前の様子を聞き取りし、またグループホームでの生活の中で、本人の思いや希望を把握し、それに沿えるよう努めている。	「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」によるアセスメントを行い、本人の思いや生活歴の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、日頃から表情や仕草で本人の思いや意向を把握して支援しており、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に家族から聞き取りしたり、また入居後も本人から話を聞いたりして本人の人物像を把握し、暮らしに活かすよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、職員間の情報交換などで、日々の状態や心身の状況、本人の有する能力等を総合的に把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の意向を踏まえて、担当者、ケアマネ、他の職員等でカンファレンスを行い、ケアプランの評価・見直しを行い、新しいケアプランを作成している。またそれ以外でも状態の変化に応じてその都度見直しをしている。	面会時や電話で家族から意向を聞き、毎月モニタリングを実施し、3か月ごとにカンファレンスを行って、介護計画を見直している。また、退院時は1か月でプランを立て、状態に変化がある時は随時追加プランを作成するなど、臨機応変に対応している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて日々の様子やケアの実践、結果、気づきを記録している。記録は全職員が確認し、記録を基にケアプランの見直しを行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の往診制度がある。またご家族の事情に応じて通院介助や自宅への外出の援助など柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	居者の家族や町内会長がボランティアとして来所してもらったり、公民館で行われている「いきいき百歳体操」に毎週参加することによって、公民館長、民生委員の方とのつながりを持っている。町内会長には地域の情報を提供していただいたりもしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の希望する医療機関やかかりつけ医を確認し、往診を受け入れている。また協力医療機関による月2回の定期往診を行い支援している。	利用者、家族が希望する医療機関に受診している。また、定期的な医師の往診と週2回の訪問看護も受けている。受診は基本的に家族同行で行っているが、本人や家族の状態に応じて職員が同行する場合もある。受診結果については個人記録に残し、職員間で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者、ご家族の希望する医療機関やかかりつけ医を確認し、往診を受け入れている。また協力医療機関による月2回の定期往診を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供し、入院者への面会時にも病院関係者との情報交換や相談に努めている。入院中の回診の時間に立会い、医師との情報交換の場も取るようにしている。退院時カンファレンスにも必ず出席し、グループホームでの生活がスムーズに再開できるよう環境を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応方針を作成し、家族の意向をふまえ、医師、職員が連携し安心した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	看取りの指針を定め、家族に説明し、同意も得ている。今までに、ターミナルケアの事例はないが、ケースバイケースで支援できるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	重度化、終末期の対応方針を作成し、家族の意向をふまえ、医師、職員が連携し安心した最期を迎えられるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所において総合防災訓練を実施している。また毎年年末に行われる町内防災訓練に参加し、地域の方々と一緒に訓練を行っている。	事業所の防災訓練は隣接する有料老人ホームを避難場所とし、町内会長外一名の参加も得て実施しており、町内の防災訓練にも参加している。ただ、事業所は河川に隣接しているため、想定外の津波や緊急時の対応としては出来るだけ多くの住民の協力等が必要である。また、非常用食料は準備しているが、備品等の準備が十分ではない。	非常時には隣接する6階建ての有料老人ホームに避難するようになっているが、想定外の津波に備えるためにも、町内の避難場所や避難経路も再確認するとともに、防災訓練に出来るだけ多くの地域住民の参加が得られるよう、呼びかけを行うことが望ましい。また、県の防災対策マニュアルを参考にして、備品等の備蓄の再点検をすることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれに合った声かけや対応により、安心して生活できるよう配慮している。接遇に関する職員内研修を随時実施している。個人情報の取り扱いについては個人情報使用同意書を頂いた上で慎重を期している。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保については、外部の研修に参加し、ミーティング時にも話し合っており、職員の意識を高めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の興味関心、希望を把握し、生活の中で自分で決定する場面が見られるようにしている。選択肢を用意し、意思表示しやすい状況を作るよう心がけている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の予定はあるが、個々の要望をできるだけ尊重し、希望の中から外出や買い物など、それぞれのペースに合わせてできることを実行している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝本人が好きな装いができるように選んでもらっている。行きつけの美容院がある方はその店を引き続き利用している。訪問理容と訪問美容業者が随時来所している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューについては今日は何を食べたいかを聞き、調理、味付け、盛り付け等入居者と一緒に行い、片付けも共にやっている。	食事の献立は利用者の意見を聞いて作成し、キザミ食の提供や食事介助など、必要に応じて個別の対応も行っている。また、利用者は、調理の下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなど、出来る事を手伝い、利用者と職員と一緒に準備や食事、後片付けなどを行っている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の量は一人一人に合わせている。水分は1日1300ccを目標に努めている。体調不良時にもスムーズに食事摂取ができるよう食事形態を変更するなど配慮している。日々の食事量、水分量を記録し、全職員が把握している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄等は、一人ひとりの力に応じて見守りや介助を行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパットを使用しても一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導も個々の状況に合わせて行い、トイレでの排泄や自立に向けて支援している。	夜間は、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者がいるが、日中は、利用者の個々の排泄パターンを把握しているので、パンツやリハビリパンツを使用して、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分摂取量を記録し、確認を行っている。また繊維の多い食品や牛乳、ヨーグルトの摂取、散歩等の運動などにも取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し、週2回は入浴していただくようにし、利用者が希望すれば他の日にいつでも入浴してもらっている。楽しく快適に入浴してもらうために職員と一緒に入ったり、入居者同士で入ることもある。	利用者が希望する時間帯に入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、言葉掛けのタイミングや人を変えるなど、対応を工夫することで、入浴できるように努めている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は早く休まれる方、遅くまでゆっくりとテレビを見られる方、一人一人の生活習慣やその時の状態に応じて安心して気持ちよく休息できるよう支援している。不眠時は一緒にお茶を飲んだり、談話したりするなど配慮している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜は早く休まれる方、遅くまでゆっくりとテレビを見られる方、一人一人の生活習慣やその時の状態に応じて安心して気持ちよく休息できるよう支援している。不眠時は一緒にお茶を飲んだり、談話したりするなど配慮している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存能力を生かして家事を分担してもらい、興味を持てるものを考慮したレクリエーションを提供している。外出や屋外行事など生活空間から離れることで気分転換できるよう心がけている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物、自宅近辺の馴染みの場所、家人の見舞いなど希望に合わせて外出している。状況に応じて複数で行ったり、個別に出掛けたりしている。	車椅子、シルバーカー、杖などを利用して、日常的に近隣の散歩などに出かけている。また、年3～4回は全員参加で外出するほか、月1回は季節の花見、レストランや回転寿司での外食など、遠出の機会を設け、利用者ができる限り出かけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力量に応じてお金を所持したり、使ったりできるように支援している。また日常所持していない方でも行事等の外出の際には、前もって家人に連絡し、一時的にお金を預かり対応している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを家族に出したり、希望時には家族と電話で話せるよう支援している。家族からの手紙や電話を歓迎すると同時に、他入居者には内容が漏れないようにプライバシーに配慮している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間等には季節感が持てるように生花や置物など季節に適したものを常に飾るようにしている。室内の照明にも配慮し、落ち着いた過ごせる空間作りをしている。ここが自分の家であると思ってもらえるような環境作り心がけている。	共用空間には、一般家庭で使用するような家具を適所に配置し、季節の花やオールドパワー文化展に出品したパッチワークと見違えるような折り紙細工などを飾っている。また、家族が描いた絵手紙なども壁に貼って、家庭的な温もりを感じさせる工夫をしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居室以外でも廊下のソファや玄関ベンチでゆっくり過ごしたり、気のあった入居者同士で思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品などを持って来ていただき、利用者、ご家族と相談しながら配置の工夫をしている。	以前から使っていたランプシェード付きのスタンド、筆筒、テレビなど、利用者が慣れ親しんだものを置き、家族の写真など利用者にとって懐かしく心むものを飾るなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解力、認知力に合わせて対応している。居室トイレが判りにくい方には目印を貼ったり、居室が分からなくなる入居者には部屋の前に大きく名前を書いて貼るなど、個々に合わせた工夫をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				